



RaQualia
innovators for life

決算説明会 2026年12月期（第19期） 第2四半期（中間期）

2026年8月 東証 グロース：4579

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。

- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品（研究開発プログラムおよび化合物）に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

1 2026年12月期
中間期ハイライト

2 中間期業績

3 三層の企業価値：1階
安定収益基盤

4 三層の企業価値：2階
導出資産・パイプライン価値

5 三層の企業価値：3階
創薬基盤・新規成長領域

6 市場評価・株価推移

7 今後のカタリスト

1 2026年12月期 中間期ハイライト

innovators for life

中間期 連結業績

ロイヤルティ収入は前年同期比14.4%増。中間期は計画どおりに進捗し、通期業績予想を据え置き

- 事業収益 1,455百万円、営業損失 338百万円、経常損失 326百万円、中間純損失 466百万円、EBITDA △112百万円
- 上半期はマイルストーン・契約一時金等の計上がなく事業収益の通期計画進捗率36.6%
- 自己資本比率は70.6%へ改善

上市品

テゴプラザンの成長とグローバル展開が継続

- 韓国上半期売上は前年同期比15.4%増、販売国は20カ国へ拡大。適応症追加と米国承認に向けて進展
- ペット用医薬品のロイヤルティ収益も順調に推移**
- GALLIPRANT®/ENTYCE™/ELURA™：いずれも安定的な売上を継続

導出資産

外部パートナーを活用した価値顕在化が前進

- 5-HT₄作動薬・モチリン受容体作動薬についてLazarusグループと導出契約を締結
- Velovia社が動物薬を開発するためのライセンスに係るオプション権を行使し、当社は一時金を受領

創薬基盤

将来の導出資産・共同研究収益につながる創薬基盤を強化

- 資本業務提携の一環として、HK inno.N社との共同研究を推進
- ファイメクス：アステラス製薬社との共同研究のほか新規の提携先獲得にむけて活動中
- 計算化学・AIに関する共同研究を理化学研究所と開始

財務・投資

成長投資を支える財務余力を確保

- HK inno.N社との資本業務提携で財務基盤を強化し、研究開発とパイプライン拡充へ投資

下期の焦点

収益の積み上げと成長投資を両立

- ロイヤルティ拡大、導出資産の進展、新規導出・共同研究契約の獲得を通じ、通期計画の達成を目指す



RaQualia
innovators for life

当社の企業価値は三層構造で成り立っている

2026年12月期
中間期

上市品のロイヤルティで現在を支え、導出資産で短中期の価値を生み、創薬基盤で中長期的な成長を実現する

3階 創薬基盤・新規成長領域

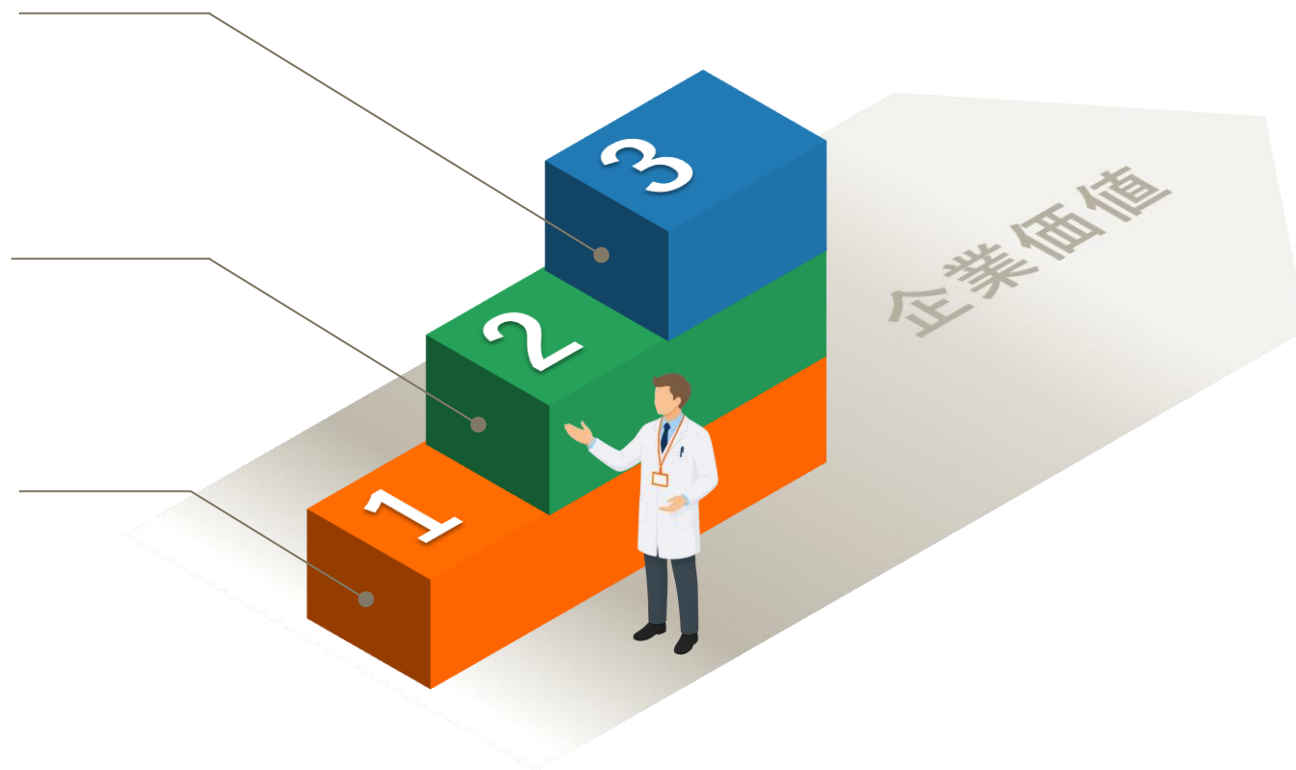
創薬基盤を強化し、将来の開発候補品と導出資産を創出

2階 導出資産・パイプライン価値

導出資産・既存パイプラインの価値を高め、収益機会を拡大

1階 安定収益基盤

上市品のロイヤルティが安定的な事業運営と成長投資を支える





2026年12月期中間期の主な進捗を、企業価値の三層構造に沿って整理

3階 創薬基盤・新規成長領域

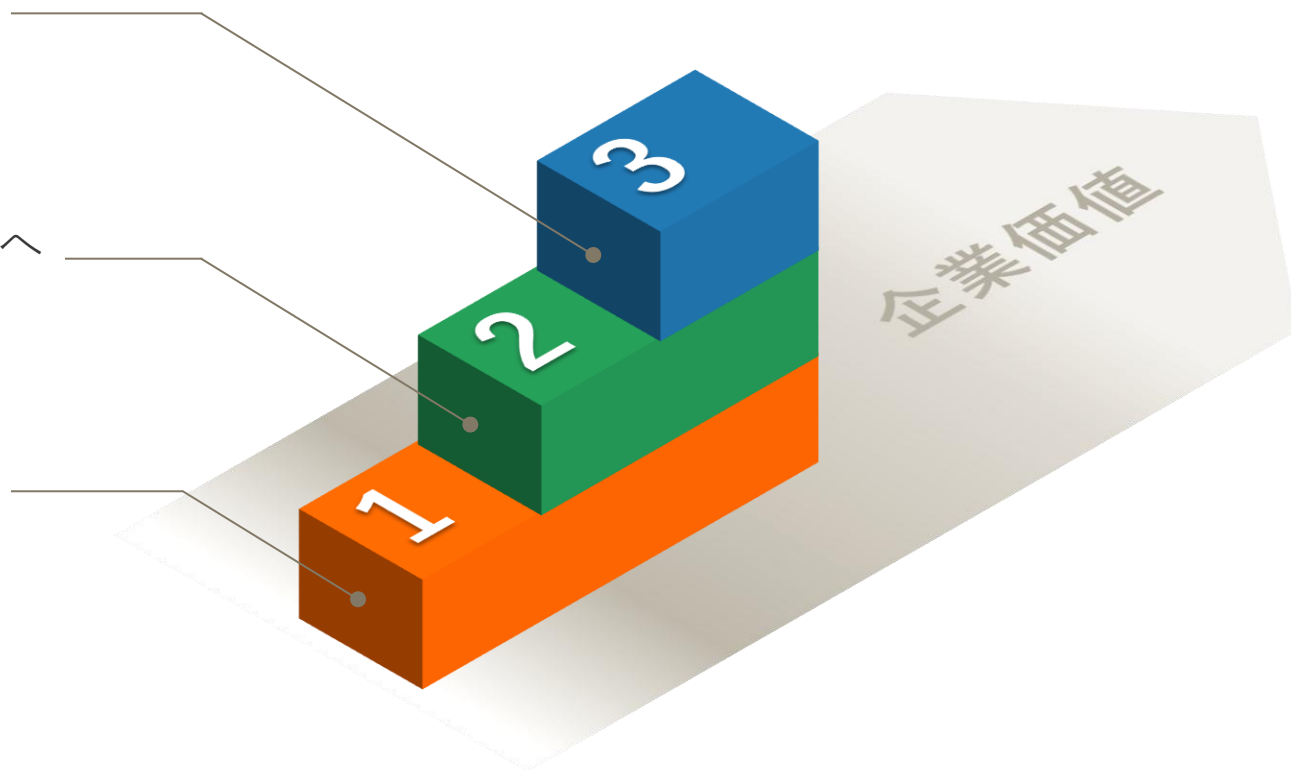
- HK inno.N社共同研究
- 理研との共同研究
- ファイメクスのTPD創薬

2階 導出資産・パイプライン価値

- 消化器疾患パイプラインのLazarusグループへの導出
- Velovia社動物薬オプション行使

1階 安定収益基盤

- テゴプラザン：好調な市場拡大
- （既存市場好調 & 米国での進展）
- 動物薬：順調なロイヤルティ推移



2 中間期 業績

innovators for life

単位：百万円

	2025年12月期 中間期（1－6月）	2026年12月期 中間期（1－6月）	前年同期比 増減率
事業収益	1,535	1,455	△5.2%
営業利益	△190	△ 338	-
経常利益	△291	△ 326	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	△354	△ 466	-
EBITDA ¹⁾	46	△ 112	-

1) EBITDA: 利払・税引・減価償却前利益

通期計画 3,980百万円に対し**当中間期で 1,455百万円**を計上

通期計画進捗率

36.6%

内訳)

ロイヤルティ

1,228 百万円

+14.4%

その他

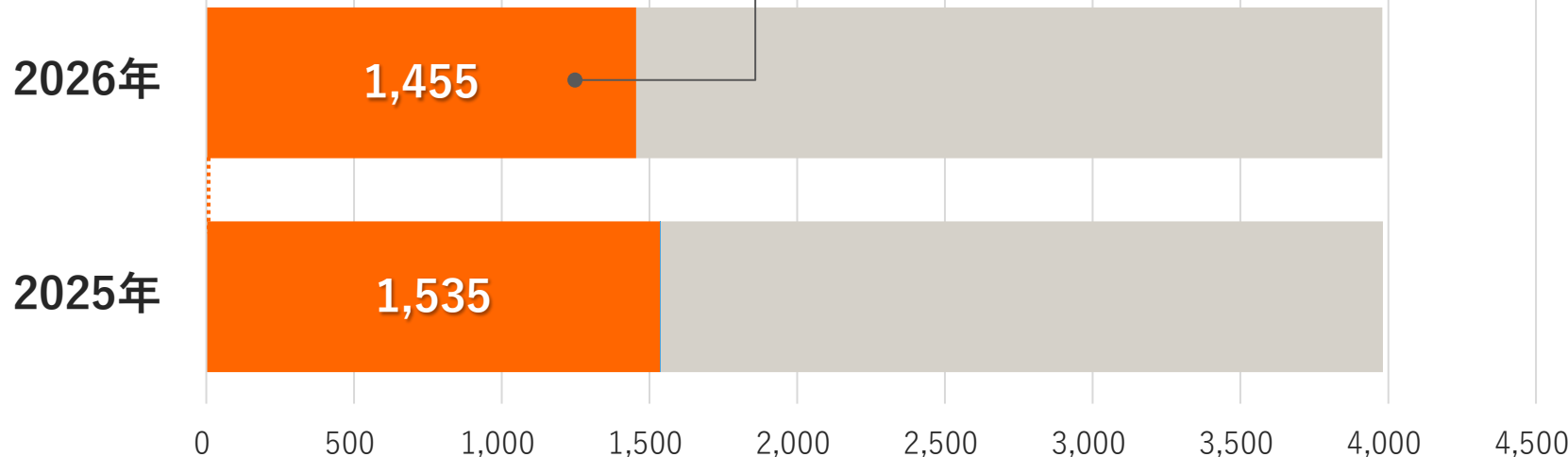
227 百万円

△50.9%

(契約一時金・マイルストン・研究協力金を含む)

前年比

単位：百万円



通期

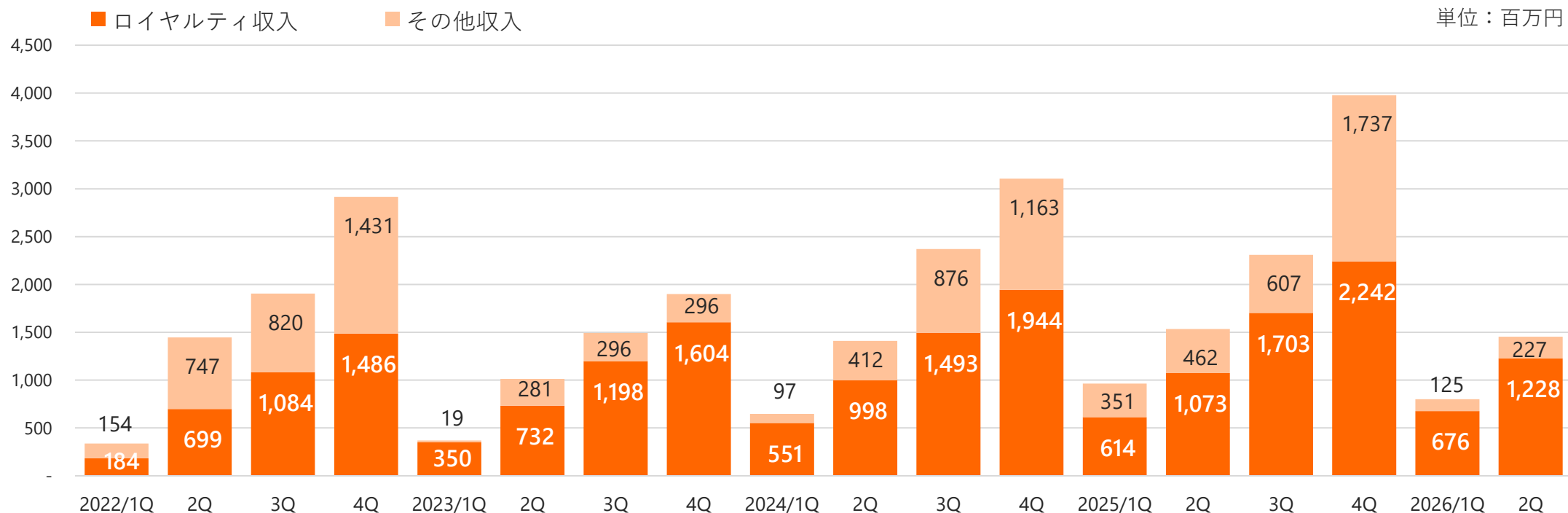
計画 3,980 百万円

実績 3,979 百万円

当中間期業績の**前年比見劣りの主因はその他収入**

マイルストン・契約一時金等の計上が無かったことが影響しているが、期初計画どおりの進捗であり、**通期の連結業績予想（2026年2月13日発表）を据え置き**、期末に向けてこれらの収益を積み上げる方針

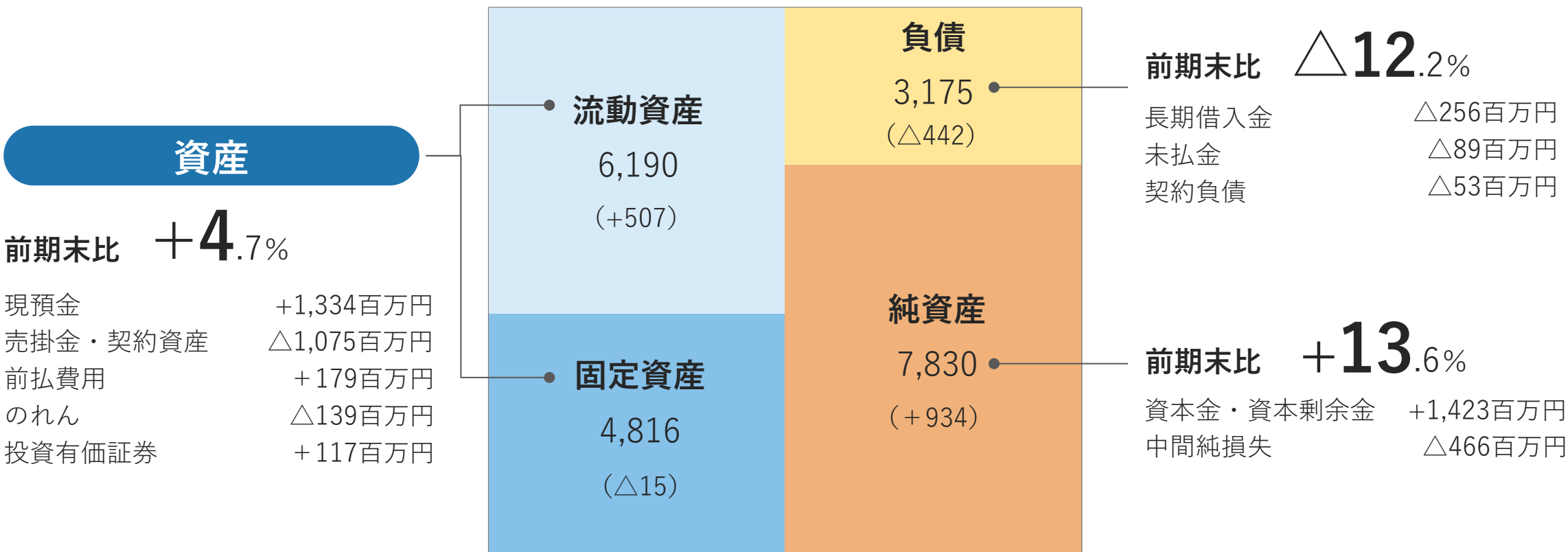
ロイヤルティ収入・その他収入の四半期推移（2022年12月期～2026年12月期）



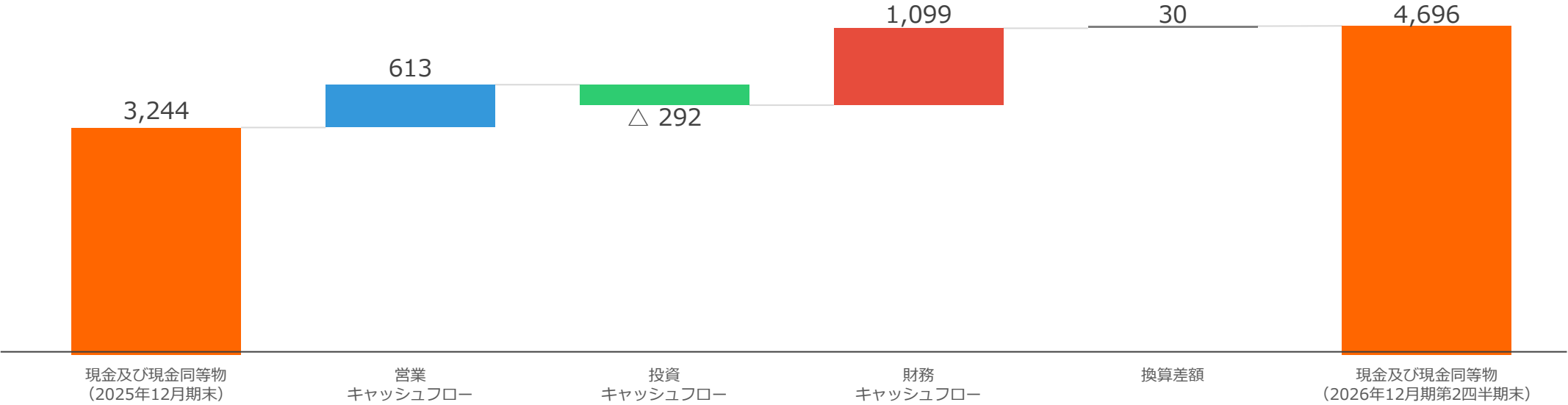
負債の減少および純資産の増加に伴い **自己資本比率は 70.6%に改善**（前期末比 5.5ポイント増）

連結貸借対照表（対前期末比較）

単位：百万円



現金および現金同等物は**前期末比1,452百万円増加**（44.8%増）



	営業キャッシュフロー		投資キャッシュフロー		財務キャッシュフロー	
主な増加要因	売上債権の減少	1,075百万円	投資有価証券の償還	100百万円	株式発行による収入	1,399百万円
	のれん償却額	139百万円				
	減価償却費	86百万円				
主な減少要因	税金等調整前中間純損失	326百万円	投資有価証券の取得	246百万円	長期借入の返済	256百万円
	前払費用の増加	178百万円	子会社株式取得	120百万円	リース債務の返済	42百万円
	法人税等の支払	168百万円				

2026年1月29日に払込みが完了

当中間期においても、**代謝・内分泌疾患領域の共同研究**を始めとした取り組みが進行中

資本業務提携の拡大の概要

資本業務提携の目的	1. 資金調達による財務基盤の強化 2. 割当予定先との連携のさらなる強化
発行決議日	2025年12月12日（金）
払込期日	2026年1月29日（木）
発行新株式数	普通株式1,555,900株
発行価格	1株当たり907円（発行決議日前日までの直前1カ月間の終値の平均値）
調達資金の額	1,411,201,300円
募集又は割当の方法	第三者割当の方法
業務提携拡大の主な内容	1. 当社の割当予定先に対する、日本におけるテゴプラザンの独占的な開発・製造・販売権の許諾 2. 当社が保有する開発化合物の価値向上に関する協力 3. 共同研究の実施 4. その他の研究開発に関する協力

資金の状況と配分には**大きな変更無し**

資金の状況

前回発表
(2026年5月15日)

今回発表
(2026年8月14日)

2025年～2027年の
事業収益見通し

128 億円

2026年～2028年の
事業収益見通し

128 億円

手元資金
(2026年第1四半期末)

52 億円

手元資金
(2026年第2四半期末)

53 億円

借入余力
(コミットメントライン)

5 億円

借入余力
(コミットメントライン)

5 億円

エクイティ調達
(新株予約権)

4.9 億円

エクイティ調達
(新株予約権)

4.9 億円

資金の配分

前回発表
(2026年5月15日)

今回発表
(2026年8月14日)

探索研究投資¹⁾
(既存領域の拡充)

72 億円 (3カ年)

探索研究投資¹⁾
(既存領域の拡充)

72 億円 (3カ年)

前臨床・臨床開発投資¹⁾
(プロジェクトの価値向上)

3 億円 (3カ年)

前臨床・臨床開発投資¹⁾
(プロジェクトの価値向上)

3 億円 (3カ年)

設備投資
(既存設備の拡充・
DX投資等)

設備投資
(既存設備の拡充・
AI/DX投資等)

戦略投資
(創薬技術・パイプ
ラインの獲得等)

戦略投資
(創薬技術・パイプ
ラインの獲得等)

企業価値最大化に向けた投資

株主還元

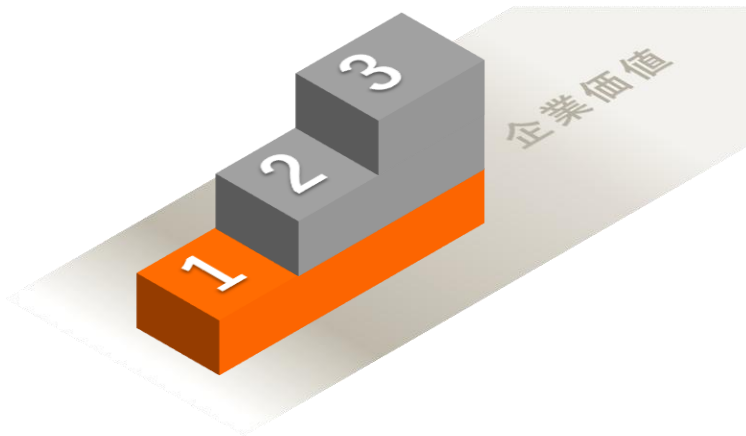
株主配当金
財務基盤強化に
応じて実施予定

自己株式の取得
機動的に検討

1) 人件費を含みます。

3

三層の企業価値：1階 安定収益基盤



innovators for life

種別	一般名・作用機序	適応症	主な製品名・販売元
 ヒト用	テゴプラザン カリウムイオン競合型 アシッドブロッカー (P-CAB)	- 胃食道逆流症 - 胃潰瘍 - 十二指腸潰瘍 ほか	K-CAB® (韓国) HK inno.N Corporation (「HK inno.N社」) タイシンザン 泰欣赞® (中国) Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co., Ltd. ほか
  ペット用	グラピプラント EP4拮抗薬 カプロモレリン グレリン受容体 作動薬	- 犬の慢性骨関節炎 - 犬の食欲不振 - 猫の体重減少管理¹⁾	GALLIPRANT® (日米欧ほか) Elanco Animal Health Inc. (「Elanco社」) ENTYCE™ (米国) Elanco社 ELURA™ (米国) Eluracat™ (欧州)、エルーラ™ (日本) Elanco社

1) 適応症は国・地域によって異なり、米国では「慢性腎疾患またはその他の慢性疾患を伴う猫の体重減少管理」となっています。

カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB)

胃酸分泌抑制剤テゴプラザン



一般名 tegoprazan (テゴプラザン)

適応症 胃食道逆流症、消化性潰瘍、ピロリ菌除菌療法ほか

販売元 HK inno.N Corporation (韓国／HK inno.N社)
Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co., Ltd. (中国／Luoxin社) ほか

製品名 K-CAB® (韓国ほか)、泰欣赞® (中国)、Ki-CAB® (メキシコほか)、PCAB® (インド)



胃酸に関わる疾患は数多い

胃食道逆流症 (GERD)、胃潰瘍、ヘリコバクター・ピロリ感染症など



既存薬 (プロトンポンプ阻害剤 (PPI)) の課題を克服

- ✓ 服用30分以内の速やかな効果
- ✓ 最長6カ月の長期服用でも有効性・安全性が持続
- ✓ 強力な胃酸分泌抑制能
- ✓ 低い薬物相互作用



世界の消化性潰瘍剤の市場は2兆円¹⁾

中国 4,500億円¹⁾、米国 4,000億円¹⁾、日本 2,500億円



全世界の権利をHK inno.N社に許諾

当社は開発の進捗に応じたマイルストーン/製品売上に応じたロイヤルティを受け取る



韓国・中国など20カ国²⁾で販売中

このほか37カ国に進出

1) 出所：HK inno.N社IR資料 (2025年11月)、換算レート：1韓国ウォン=0.11円

2) 韓国、中国、モンゴル、フィリピン、インドネシア、シンガポール、メキシコ、ペルー、チリ、コロンビア、ドミニカ共和国、ニカラグア、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドル、パナマ、マレーシア、インド、タイ、およびロシア

韓国におけるK-CAB® の売上高は引き続き好調に推移

2026年12月期
中間期

K-CAB® 2026年上半期の国内売上高（処方ベース） 1,200億ウォン（約132億円） ※1

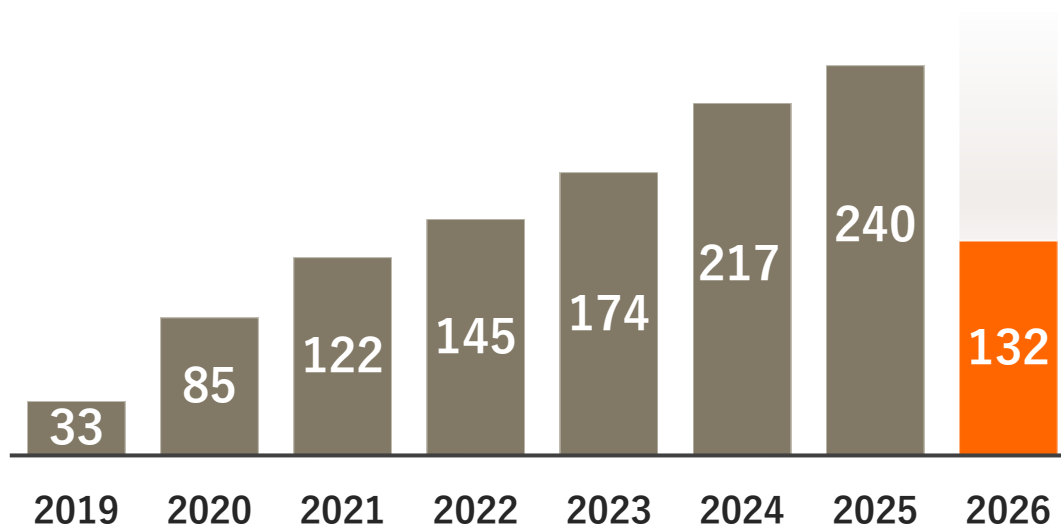
前年同期比+15.4%と昨年に引き続き右肩上がりの好調な売上を維持

2026年4月の外来処方売上高（全領域）においてグローバルファーマの製品を抑えて首位

韓国市場における「K-CAB®」のパフォーマンス

売上高（処方ベース）の年次推移

（単位：億円）



前年同期比

+15.4%

市場シェア※2

第1位

（シェア15%）

※2025年における韓国の消化性潰瘍剤の市場規模

約**1,620**億円（2019年の1.8倍）
（P-CABのシェア 26.4%）

※1：院外処方実績（暫定値）

※2：韓国における胃酸分泌抑制剤市場におけるシェア

HK inno.N社がNSAIDs誘発性潰瘍の予防に関する承認を取得



NSAIDs誘発性潰瘍とは

非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）の服用が原因で胃や十二指腸の粘膜が損傷を受けてできる潰瘍
上腹部の痛み、吐き気、胸やけ、消化管出血などを伴う



承認内容と臨床エビデンス

- 対象患者：NSAIDs長期投与患者
- 比較対照：テゴプラザン25 mg vs ランソプラゾール15 mg（PPI）
- 有効性①：胃潰瘍・十二指腸潰瘍の発生率でランソプラゾールに対する非劣性（24週）
- 有効性②：胸やけ症状なしの割合が対照群比で統計学的に有意に高い（12週）
- 安全性：11種類のNSAIDsを用い、24週間の投与期間で評価

同クラス最多

6

韓国での承認適応症

EE／NERD／胃潰瘍／H. pylori除菌補助
EE維持療法／NSAIDs潰瘍予防

事業への示唆



市場浸透

新たな予防ニーズを取り込み、
韓国での浸透拡大に寄与



製品価値

適応症の広がりにより、
競争力をさらに強化



業績影響

今期影響は限定的、
中長期的な成長に寄与

※EE: びらん性胃食道逆流症、NERD: 非びらん性胃食道逆流症

参照：2026年7月27日当社発表「胃酸分泌抑制剤tegoprazanの韓国における新たな適応症追加に関するお知らせ」

(2026年8月14日現在)

世界57カ国（日本を含む）での事業活動が進行中。販売国**20カ国**に加え、承認取得国が増加



中国での販売・開発が進展

P-CAB製品トップの売上高
注射剤の臨床試験進行中

当中間期に規制手続きが前進

ベラルーシで販売承認を取得
オーストラリアで承認申請

北米での開発が進展

米国において承認審査中

P3試験結果が国際学会

DDW 2026（2026年5月）で発表

その他の主要な国・地域における販売・開発状況

P3試験実施中・申請準備中

カナダ、中東・北アフリカ※1

承認審査中

ベトナム、中南米5カ国、米国、オーストラリア、
ブラジル、南アフリカ、ウクライナ、中東・北アフリカ※1

承認済・発売準備中

パラグアイ、エクアドル、ウズベキスタン、ベラルーシ

※1：国によって開発段階が異なります。

**グローバル展開は着実に進展
開発・販売の基盤拡充が進行中**

世界20カ国への展開に続き、**米国市場への参入が次の成長ステージ**

 **約4,000億円の大市場で既存治療（PPI）には今なお大きな未充足ニーズ**

市場機会

米国の消化性潰瘍剤市場

約**4,000**億円

世界有数の大型医薬品市場

既存治療の課題

PPIで症状が
十分に緩和されない患者

約**4 割**

残された未充足ニーズ

長期治療ニーズ

合併症リスクが高く
長期の維持療法を要する

重症EE

治癒だけでなく維持効果が重要

テゴプラザンへの期待

速やかで持続的な胃酸分泌抑制により米国の未充足ニーズに応える可能性

EE・NERD・維持療法を対象とする承認の取得はロイヤルティ収入の成長機会になるだけでなく、
テゴプラザンが「グローバル・ブロックバスター」の地位を得るための重要なステップ

テゴプラザンは大規模臨床試験の結果により**PPIに対する優位性を確立した世界初のP-CAB**

 **TRIUMpH試験：EE・NERDについて、すべての主要／副次評価項目を達成**

EEを対象とした第III相臨床試験（TRIUMpH-EE 試験）の結果（2026年5月発表）

早期治癒 | 重症EE・2週

+19.6 pt

74.1% vs 54.5%

重症EE 完全治癒率
対ランソプラゾール

長期維持 | 重症EE・24週

+32.1 pt

76.4% vs 44.3%

重症EE 完全治癒維持率
100 mg／対ランソプラゾール

安全性・忍容性

同程度

ランソプラゾールと同程度
血清ガストリンは正常範囲内

临床上/事業上の示唆



臨床

重症EE患者で早期治癒と長期維持の
双方において明確な優越性



事業

PPIに対する差別化を裏付け、
市場浸透とロイヤルティ成長を後押し

タイムライン

2026年1月

FDAへ
承認申請済み

2027年1月

**承認取得
見込み**

既販売国において**安定的な売上を継続**



EP4拮抗薬

GALLIPRANT®

- 日米欧ほかで販売中
- 2021年にブロックバスター製品¹⁾に成長²⁾

一般名	grapiprant (グラピプラント)
適応症	犬の慢性骨関節炎
販売元	Elanco Animal Health, Inc. (米国／Elanco社)



グレリン受容体作動薬

ENTYCE™

ELURA™

米国で販売中

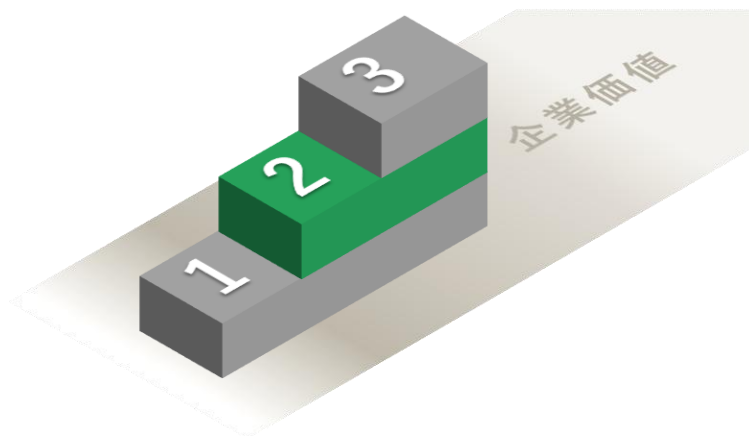
米国・欧州・日本ほかで販売中

一般名	capromorelin (カプロモレリン)
適応症	犬の食欲不振 (ENTYCE™) 慢性腎疾患またはその他の慢性疾患を伴う猫の体重減少管理 ³⁾ (ELURA™) ほか
販売元	Elanco社

1) ここでは年間売上高が100億円を超える規模の製品のことをブロックバスターと称しています; 2) Elanco社 2021年度決算発表 (2022年2月24日); 3) 適応症は国・地域によって異なります。

4

三層の企業価値：2階 導出資産・パイプライン価値



innovators for life

消化器系の導出準備プログラムである**5-HT₄作動薬**および**モチリン受容体作動薬**を、米国の**Lazarus Pharmaceuticals, LLC傘下のポートフォリオカンパニー**に対して導出

- 今後の開発および商業化はGiathera社およびGiovel社が主導

導出契約の概要		
対象化合物	5-HT₄作動薬 (化合物コード：RQ-00000010)	モチリン受容体作動薬 (化合物コード：RQ-00201894)
契約の相手方	Giathera Pharmaceuticals, Inc. (「Giathera社」)	Giovel Pharmaceuticals, Inc. (「Giovel社」)
契約締結日	2026年6月12日（金）	
権利許諾	ヒト用医薬品分野における独占的ライセンス（開発・製造・販売等）	
経済条件	・ マイルストーン（開発・販売） ・ ロイヤルティ	・ マイルストーン（開発・販売） ・ ロイヤルティ ・ 株式対価

Lazarus Pharmaceuticals, LLCについて

- ・ 消化器領域の専門人材が設立した米国企業
- ・ アセット毎に独立した開発会社を設立し、外部資金を活用して開発を推進
- ・ 出口戦略：IPO/M&A/製薬企業との提携

参照：2026年6月12日当社発表「Lazarus Pharmaceuticals, LLCグループとの新規事業創出モデルによる導出契約締結のお知らせ」

本件は、**外部主体で既存パイプラインを育て将来の収益機会へつなげる**ための新たな取り組み

開発優先度を上げにくかった資産を専用会社へ導出し、外部資金で開発を再始動

1

社内リソースに限界

多様なパイプラインの中で、
優先順位をあげにくい資産が停滞

2

1資産 = 1社へ導出

Giathera社／Giovel社が外部資金を調達し、
開発・商業化を主導

3

成功時に価値を回収

マイルストン・ロイヤルティに加え、
Giovel社では進展に応じた株式割当権も確保

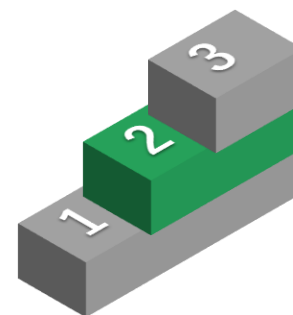
このモデルの狙い



自社資本を投じずに開発を前進させ、
価値回収の速度・確率を高める

- 契約一時金を置かない代わりに、開発の進展に応じた後段のリターンを重視
- 導出先の開発進展可能性を高める設計

三層構造の企業価値との接続



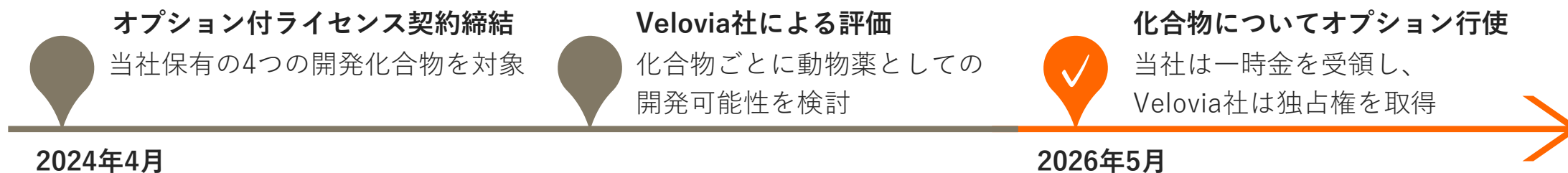
導出資産・パイプライン価値

既存パイプラインの価値を高め、
収益機会を拡大する施策として実施

※ただし、価値顕在化は、外部資金調達・開発・出口の実行に依存して変動することがあります

ヒト用医薬品の既存アセットについて外部パートナーを通じて**動物薬という新たな用途と価値を開拓**

動物薬用途で1化合物のオプションが行使され、当社は一時金を受領



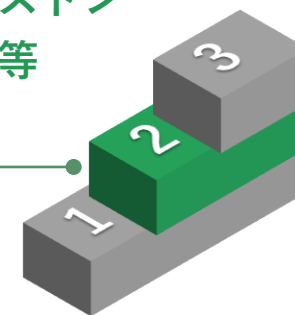
経済条件（現在/将来の価値）

オプション行使に係る一時金を
当第2四半期の事業収益として計上

今後の進展に応じて受領

- ・ 開発進展に応じたマイルストーン
- ・ 商業化時のロイヤルティ等

既存パイプラインの用途拡張を通じた「2階部分」の価値顕在化



Velovia Pharma, LLCについて

Aratana Therapeutics社（※）の創立者であるDavid Rosen氏により設立された動物用医薬品開発企業
※：現Elanco Animal Health社。ペット用医薬品「GALLIPRANT®」「ENTYCE™」「ELURA™」の開発企業

参照：2026年5月20日当社発表「米Velovia Pharma, LLCによるオプション権行使に伴う一時金受領のお知らせ」

導出済み資産と導出準備プログラムを通じ、**短中期の価値創出機会を幅広く構築**

(2026年8月14日現在)

導出済み

導出準備

		5-HT₄作動薬 消化管運動障害 Giathera社 NEW
モチリン受容体作動薬 胃不全麻痺ほか Giovel社 NEW	テゴプラザン（日本） 胃食道逆流症ほか HK inno.N社	
特定の1化合物（動物薬） ※オプション行使済 Velovia社 NEW	TRPM8遮断薬 疼痛 Xgene Pharmaceutical社	
5-HT₄作動薬（動物薬） 消化管運動障害 Vetbiolix社	CB2作動薬 化学療法誘発性末梢神経障害ほか AskAt社	COX2阻害薬（動物薬） 疼痛 AskAt社/Velo-1社
特定の化合物（動物薬） ※評価継続中 Velovia社	EP4拮抗薬 がん（がん免疫） AskAt社/NewBay社	EP4拮抗薬 疼痛 AskAt社
EP4拮抗薬 変形性関節症ほか AskAt社	5-HT₄部分作動薬 アルツハイマー病 AskAt社	COX2阻害薬 疼痛 AskAt社

開発段階非開示
ナトリウムチャンネル遮断薬 疼痛 久光製薬社
P2X7受容体拮抗薬 — 旭化成セラピューティクス社/Lilly社



グレリン受容体作動薬 便秘、悪液質、食欲不振	5-HT_{2B}拮抗薬 下痢型IBS
TRPM8遮断薬（日本） 慢性疼痛	
IRAK-M分解誘導薬 がん（がん免疫） FIMECS	

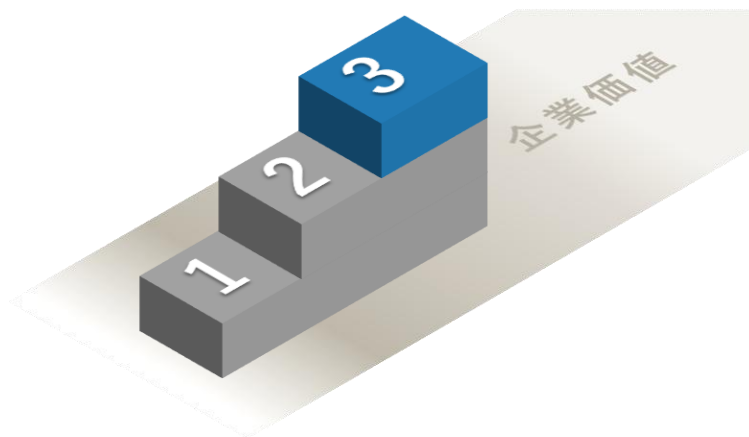
臨床段階
選択的ナトリウムチャンネル遮断薬 鎮痛・鎮痒
タミバロテン がん

注1) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。

注2) 動物薬については、POC試験を前臨床試験、パイロット試験をフェーズ2試験、ピボタル試験をフェーズ3試験として表示しています。

注3) 「開発段階非開示」および「臨床段階」の4プログラムの開発段階は非開示であり、上図はこれらがフェーズ3段階にあることを意味するものではありません。

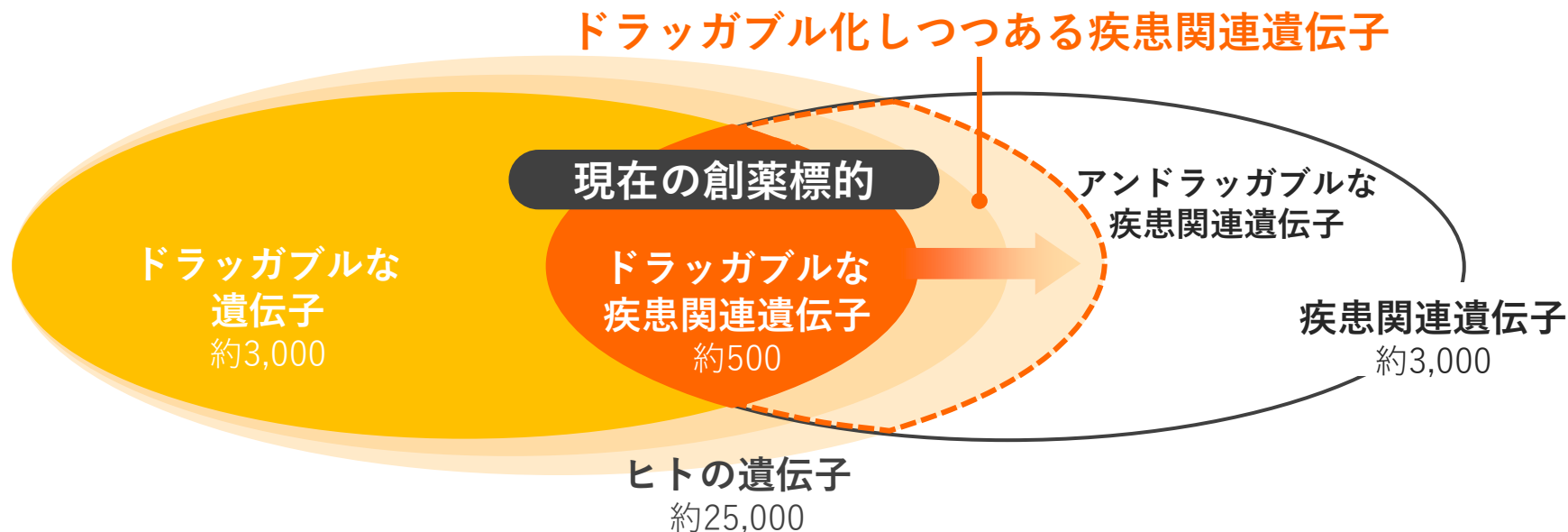
5 三層の企業価値：3階 創薬基盤・新規成長領域



innovators for life

医薬品の創出が困難とされてきた疾患関連遺伝子を**創薬力の強化**によって開拓する

アンドラッグダブルを **ドラッグダブル** へ

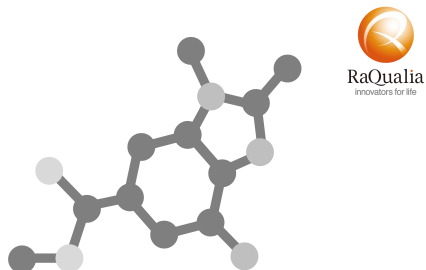


※ドラッグダブルとは、化合物・抗体等の物質により受容体等の標的の分子の機能を調節できる可能性が高いことを意味し、ドラッグダブルかそうでないかによって新薬候補を生み出せるかどうかが大きく左右されます。

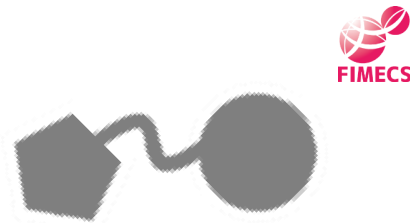
当社が実績を持つ低分子化合物に引き続き注力しつつ、新規モダリティへの展開を進めて
アンドラッグブルなタンパク質に挑む

新規モダリティの活用により**効率的かつ持続的に新規パイプラインを創製**する

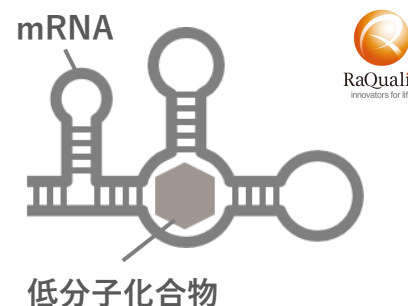
低分子化合物



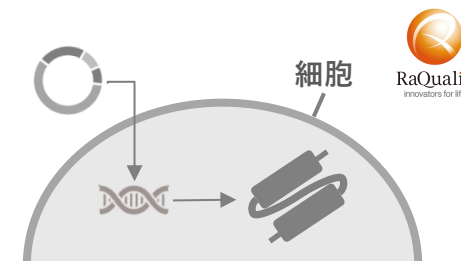
標的タンパク質分解誘導剤 (TPD)



mRNA標的低分子



細胞内抗体 (intrabody)



最も普及したモダリティ

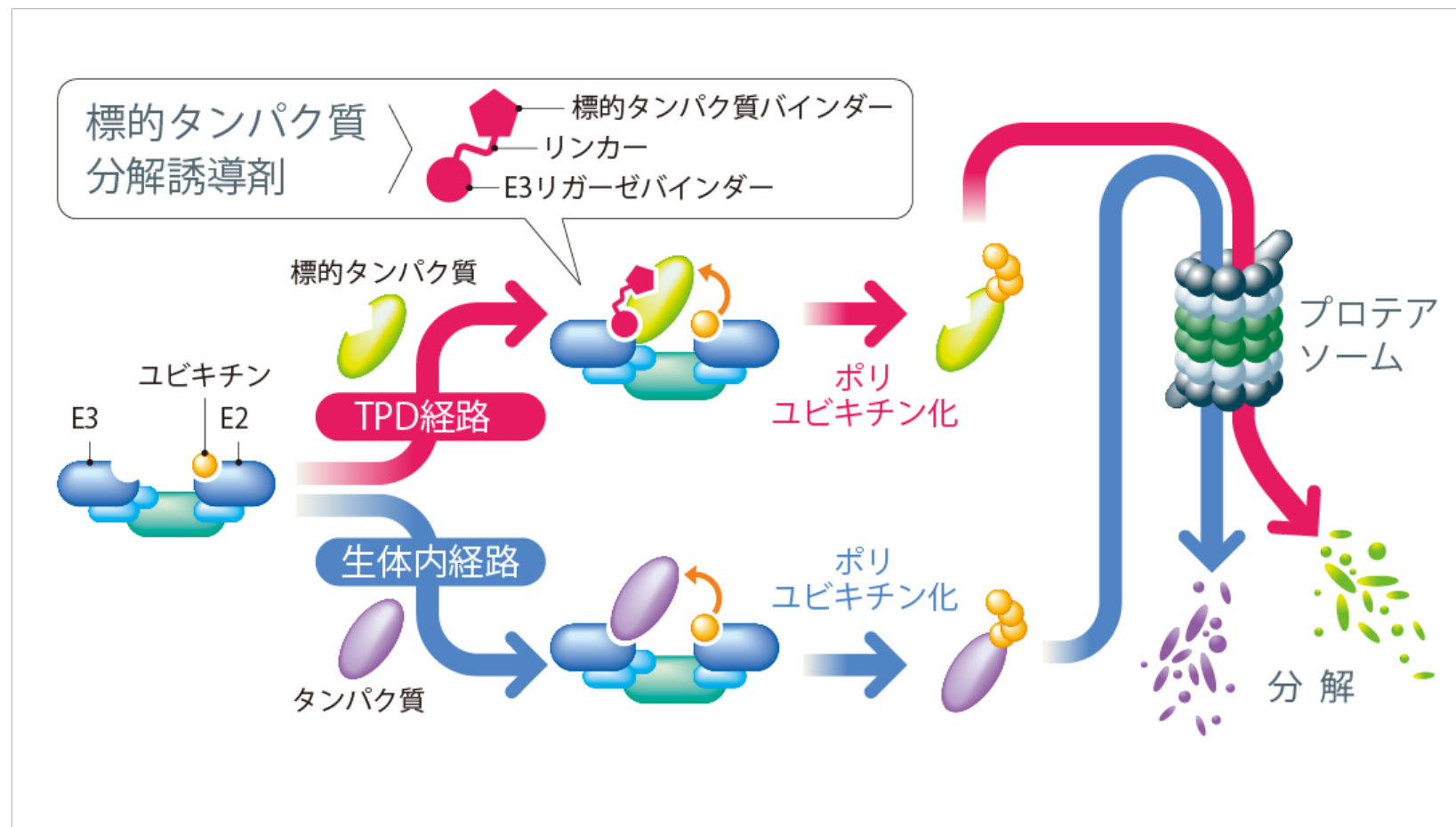
- 当社が豊富な実績を保有
- 一般的に経口投与可能

近年注目を浴びる新規モダリティ

- 疾患の原因タンパク質を分解することで効果を発揮
- 経口投与可能な薬剤が増加
- mRNAに結合してタンパク質の生成を抑制
- 経口投与の実現可能性大
- 細胞内で機能する抗体
- 経口投与は困難

標的タンパク質分解誘導剤（TPD）

生体内に備わる不要タンパク質除去機構を利用した**新たなモダリティ**



幅広い
標的タンパク



触媒的に作用



低用量での
薬効の持続性



2026年5月
世界初のTPDが
米国で承認※1

※1：2026年5月1日 Arvinas社とPfizer社が共同で開発していたverpdegestrantについて、ER陽性（ER+）、HER2陰性かつ ESR1変異陽性 で内分泌療法後に進行した進行・転移乳癌を対象とした製造販売承認を取得 (<https://ir.arvinas.com/news-releases/news-release-details/arvinas-announces-fda-approval-veppanu-vepdegestrant-treatment>)

RaPPIDS™はE3リガーゼの選択肢を広げることで、**TPD創薬の適用範囲と開発効率を向上**させる

Rapid Protein Proteolysis Inducer Discovery System

高い生産性

- 週あたり1,500以上の分解誘導剤を高スループットで合成・評価
- 迅速な創薬探索とリード最適化を実現

新規E3の同定に向けた フェノタイプ重視アプローチ

- 「フェノタイプファースト」
- 適切なE3リガーゼ特定のための革新的手法
- 治療応用の幅を拡大する分解剤の創出を支援

独自の新規E3リガーゼ

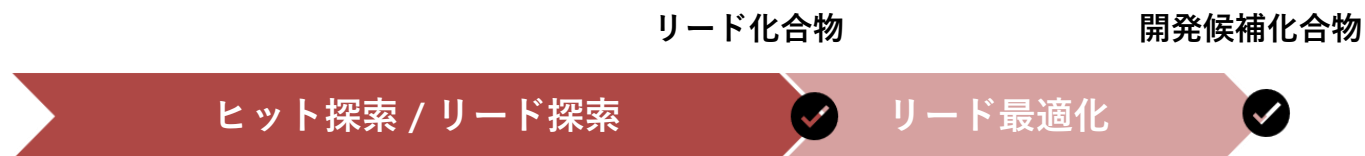
- TPDへの幅広い応用が可能
- 組織特異的な発現プロファイル
- 有効性を維持しつつ毒性を抑制する設計
- 経口分解剤創出の高いポテンシャル

経口投与可能な分解剤設計の専門性

- 経口投与可能な分解剤の設計に関する知見
- TPDのバイオアベイラビリティ課題を解決するソリューション

E3リガーゼ活用領域の拡張

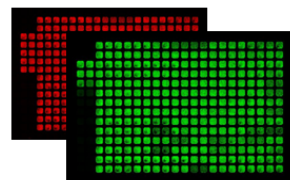
まず「分解できること」を起点に探索し、その後に最適なE3リガーゼを選択するアプローチ



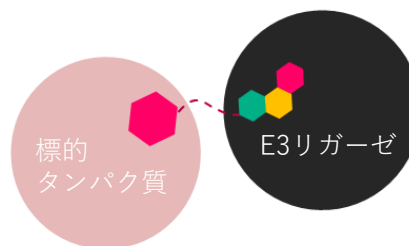
フラグメントベースの
多様性志向合成 (DOS)



細胞ベースの
分解スクリーニング



リード最適化およびE3同定



「分解ファースト」型のハイスループット手法により
従来のTPDワークフローよりも迅速な探索が可能

キメラ型分解剤



モレキュラーグルー型分解剤



キメラ型分解剤およびモレキュラーグルー型分解剤の両方に適用可能

理化学研究所 本間光貴ユニットリーダーとの連携により **計算化学・AI技術の創薬応用**に取り組む



共同研究で開発に取り組む創薬支援技術

バーチャルスクリーニング

数億規模のライブラリを機械学習と組み合わせ
効率的に探索

結合自由エネルギー評価

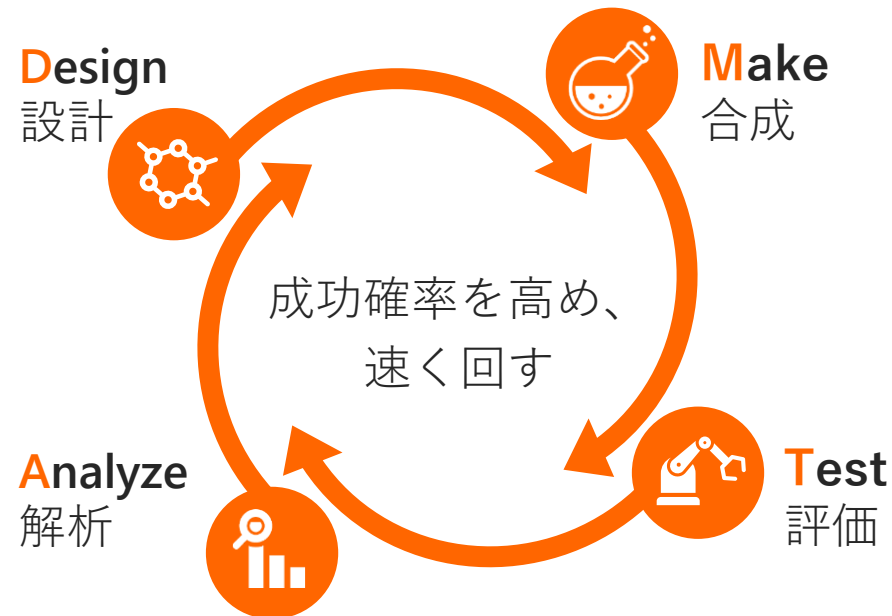
分子動力学計算などにより結合親和性を定量的
に評価

構造生成AI

構造発生により合成候補となる新規構造を提案

当社の狙い

DMTAサイクルの加速



本間 光貴氏 | 理化学研究所 創薬分子設計基盤ユニットリーダー

製薬企業出身で計算科学とAIを融合したインシリコ創薬基盤の開発を主導する国際的研究者

HK inno.N社との戦略的協業が三層の価値創出を加速

2026年12月期
中間期

テゴプラザンをはじめとする上市品のロイヤルティで現在を支え、導出資産で短中期の価値を生み、創薬基盤で中長期的な成長を実現する

創薬基盤で中長期の成長

HK inno.N社との共同研究により、
同社が強みを持つ代謝・内分泌疾患領域へ進出

導出資産で短中期の価値

共同研究成果等についてHK inno.N社の開発力と
グローバルネットワークにより導出機会を拡張

テゴプラザンの価値最大化

テゴプラザンの日本国内での事業化を
HK inno.N社に託し、その他の国・地域でも
両社の連携により価値最大化



HK inno.N社との戦略的協業は、価値創出を加速する推進力として当社の成長を後押しする

重点領域である神経疾患・がんに加え、**HK inno.N社との共同研究により、代謝・内分泌疾患領域の創薬研究に着手**



創業期から続くHK inno.N社との協業を土台に「第二、第三のテゴプラザン」の萌芽へ

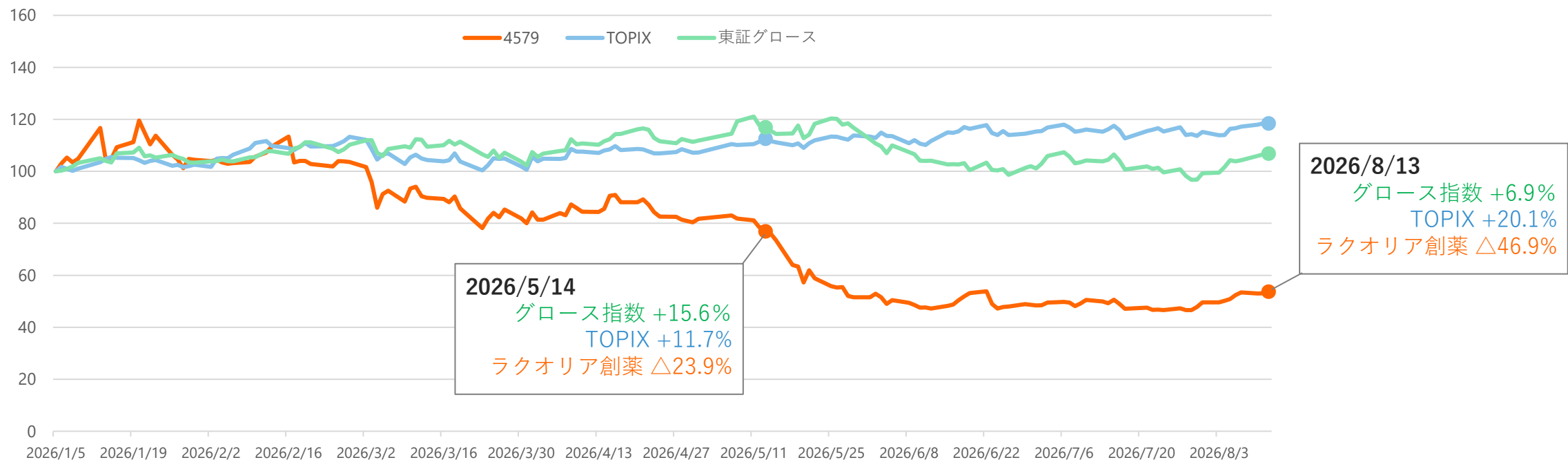
6 市場評価・株価推移

innovators for life

当社の**株価は軟調に推移**。足元の事業価値と将来の成長可能性を**市場評価につなげきれていない**
マイルストン・契約一時金等のイベント収益により、四半期業績は変動
三層構造の成果を可視化することで継続的な企業価値向上に結び付ける

ラクオリア創薬 相対株価

(2026/1/5の値を100として指数化 (対象期間：2026/1/5－2026/8/12))



7 今後のカタリスト

innovators for life

1階
安定収益基盤

2階
導出資産
パイプライン
価値

3階
創薬基盤
新規成長領域

プログラム	想定適応症	国地域	研究開発段階	短期 (2026年)	中期 (2027-2028年)	導出先/提携先
テゴプラザン	胃食道逆流症等		承認審査中	承認審査	承認取得 製品発売	HK inno.N社 Sebela社/Braintree社
			フェーズ1	後期臨床試験の実施		HK inno.N社
			前臨床	導出契約締結	後期臨床試験の実施	HK inno.N社 提携先企業
TRPM8遮断薬	慢性疼痛		フェーズ1	臨床試験の進展（フェーズ1→フェーズ2）		Xgene社
5-HT ₄ 作動薬	消化管運動障害	全世界	フェーズ1	開発計画具体化	後期臨床試験の実施	Giathera社
モチリン受容体作動薬	胃不全麻痺等	全世界	前臨床	開発計画具体化	臨床試験の実施	Giovel社
P2X7受容体拮抗薬	未定	全世界	（非開示）	共同研究の進展（マイルストーン）		旭化成セラピューティクス社 Lilly社
グレリン受容体作動薬	便秘・悪液質	全世界	前臨床	導出	臨床試験の実施	提携先企業
IRAK-M分解誘導薬	がん （がん免疫）	全世界	前臨床	臨床開発準備 導出	臨床試験の実施	提携先企業
既存共同研究プログラム	がん	全世界	研究	新規契約獲得	新規契約獲得	アステラス製薬社
新規共同研究プログラム	未定	全世界	研究	新規契約獲得		提携先企業

想定される進捗イベントの内容や時期は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う当社独自の想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

4つの重点方針を同時に進め、**カタリストの確度・速度・企業価値への転換力**を高める

重点方針	主な対応	価値へのつながり
1 テゴプラザン 価値最大化	販売国・適応症の拡大および 米国承認・販売準備に向けて提携先と連携	ロイヤルティ収入の 持続的な拡大
2 導出資産の 開発加速	TRPM8、5-HT ₄ 、モチリン等の開発において提携先と連携 グレリンとIRAK-Mについては速やかに導出 その他の資産も再評価し、次の意思決定を促進	マイルストンの 確度・速度向上
3 成長ドライバー 創出	HK inno.N社との共同研究から開発候補品を創出 アステラス製薬社との共同研究（TPD）から開発候補品を創出 新規共同研究・技術提携を継続的に開拓	中長期パイプライン 価値の積み上げ
4 投資規律・ 開示の強化	優先順位に沿って研究開発投資を配分 事業の進捗と価値創出を継続的に発信	収益性と市場評価の 両立

施策によってカタリストの確度と速度を高め、企業価値の継続的な積み上げにつなげる

質疑応答

ご質問はQ & A 機能よりお送りください

innovators for life

質疑応答

※ご質問の受付は終了いたしました

innovators for life

イノベーションの力で、いのちに陽をもたらす



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社



当社のプレスリリースや決算発表等の情報をタイムリーにお知らせいたします

✉ IRニュースメール登録